心肺蘇生法に神様は必要か？

　――タッタッタッタッタ。

「お姉ちゃん！　私も戦う！」

「何、言ってる……の？　ここ……危険。早く逃げなさ……い」

「でもっ！」

「報告します！　向こうに、城の外へと通じる道を発見しました！」

「そんなものがっ？　知らなかった！」

「どうやら、今まで本棚の裏に隠されていたようです！」

「さっきのド派手な砲撃で、本棚、壊れちゃったみたい……ね。丁度いい……わ。二人共、そこから脱出しなさ……い。ここ、私が食い止める」

「で……でも！」

「あなた。私の可愛い妹、お願い……ね」

「……承りました。妹君は、このの命に替えても、必ずお守りいたします」

「……だめ。二人共、必ず生き残りなさ……い。それが、あなたへの……命令」

「勝手に二人で決めないで！　私だって戦うもん！」

「聞き分けのないこと言わない……の。ここは任せ……て」

「さあ、行きましょう！」

「そんな……」

「――きた！　二人共、早……く！」

「……ごめん、お姉ちゃん。でも、必ず助けに来るから……！」

「ふふ……期待している……わ。でも、無理しちゃ、メっ……よ？」

「……うん」

「早く行きましょう！　もう、追っ手がすぐそこまで来ています！」

「そう……ね。早く行きなさ……い！」

「……ごめん」

　――タッタッタッタッタ。

「……必ず生き延びて……ね。私の可愛い妹、ゼウス」